

論壇

原油高騰 広がる影響

私が今大学で教えている学生はバブルを知らない世代だ。ましてやこれまでの人生でインフレを経験したこともない。バブルが崩壊したのは30年ほど前のことだが、それ以来物価はほとんど上がっていない。つまりインフレにはなっていない。

ただ、私くらいの世代だと激しいインフレを経験している。私が大学生だった1973年、第1次オイルショックが起きた。石油の価格が急騰したが、日本でもスーパーの店頭からトイレットペーパーや洗剤が消えた。多くの

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

消費者がパニックで買いに走ったからだ。この73年には、消費者物価指数で測った物価は1年間に30%以上も上昇した。100円だった商品が1年後には130円になるような状況だ。中には半年ほどの間に値段が倍になる商品もあった。この20年間、日本の物価上昇率は0からマイナスであった。

コロナ禍がその背後にあることには間違いない。ウイルス感染の最悪の時期を脱したと考える人も増えたのか、米国・欧州・中国などで、経済が急速に回復を始めて

「インフレの芽」動き注視

た。20年たつても、物価は全く上がっていないことになる。1年で30%上がる事態とは大違いである。

これだけデフレ状況が長く続いたので、当分の間、インフレを経験することはないと思っていた。ところが最近の新聞にはイン

なり、これは7年ぶりの高値である。

原油や天然ガスの価格の上昇は、経済全体の物価に大きな影響をもたらす。燃料価格が上がれば

運送業者や漁業者は燃料高に苦しめられる。原油や天然ガスの価格上昇は電力価格にも影響があり、スーパーやコンビニなど冷蔵庫を多く利用する企業のコストを引き上げる。もちろんガソリンの価格が高くなることは多くの消費者にも痛手だ。

価格転嫁の可能性も

こうした物価上昇の圧力によって、米国では直近で約30年ぶりに6%を超えるインフレ率になり、欧州(ユーロ圏)でも4%を超えたが、これも13年ぶりという。日

本だけが消費者物価上昇率は0%近くにとどまっているが、企業のコストに反映される企業物価指数は直近で8%を超え、これは約40年ぶりの高さだ。消費者物価は上がらないが企業物価が上がっているというのは、企業が原料や燃料に苦しんでいるが、価格に転嫁できないでいるということだ。いずれさまざまな商品やサービスの価格に転嫁される可能性は小さくない。

さて、今後の展望はどうだろうか。インフレの時代はくるのだろうか。今の時点で予想するのは難しい。ただ、デフレの時代を大きく転換させる威力をコロナ禍が持っていることは確かだ。今後の物価の動きに注目してほしい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。